



# 瀬戸小だより

ふれ合う 認め合う 共に学ぶ 笑顔あふれる瀬戸ケ谷小学校

mail:y3setoga@edu.city.yokohama.jp

学校だより 7月号  
令和5年6月30日  
横浜市立瀬戸ケ谷小学校  
校長 松永 淳子  
TEL 713-8336 FAX 713-9749

瀬戸ケ谷小学校

検索

## 33で390

校長 松永 淳子

今年も1, 2年生が育てている朝顔が咲き夏野菜が実り、校庭の片隅が赤、黄色、濃紺、紫など鮮やかに彩られています。この景色を見ると季節が春から夏に変わり、子どもたちが様々な経験を重ね成長の階段を上り、次のステップに進んでいることが感じられます。

さて、みなさんは次の言葉からどのようなことを連想されますか。「雨 晴れ 虹色 瀬戸ケ谷」更に言葉の間に「から に」という助詞でそれらの言葉を繋いだらどうでしょう。

「 雨から晴れに にじいろ瀬戸ケ谷 」

これは、今年度の瀬戸ケ谷小学校 学校スローガンです。

意味としては、雨から晴れには「悲しんでいる人や悩みをかかえている人の心が晴れるように」にじいろ瀬戸ケ谷には「にじはたくさん色が重なってできている。一人ひとりの個性を認め、他人を思いやり、繋がっていきたい」という全校の子どもたちの願いが込められています。全校と申し上げましたが、全校の子どもたちが、どのようにしてこのスローガンを決定したのかというと代表委員会で話し合いました。では、その代表委員会ですが、メンバーは4年生以上、各クラスから2名と運営委員から5・6年生が各クラスから3名参加し合計33名で構成されています。1年生から3年生と個別支援学級に代表委員が原案を伝えにいき、それを基に各クラスで話し合います。4年生から6年生の各クラスでは、代表委員が中心となり原案について話し合います。全クラスで話し合われたことが、代表委員会という場で更に意見を交換し決定されます。この話し合いでは、各クラスで考えたことについて、なぜそのような考えに及んだのかよく考えていました。この場に参加しているクラスのことはばかりでなく1年生から3年生の考えについて思いを馳せ、何が全校のみんなにとって大切なことなのかを考えていました。子どもたちの話し合いの最後に担当の教員からこの時間の話し合いについての気づきや感想などが伝えられるのですが、「原案通りだっていいじゃないか。大切なのはその理由。この場にいない学年のことも考える。1から6年全員で瀬戸小。」とここまでを振り返り伝えていました。

構成されている人数は33人ですが、390人の考えを汲み取り決定していく姿がここにはありました。自分がという気持ちとみんなはという気持ちに折り合いを付け、調整できるところはさすが高学年と感心いたしました。自分の気持ちをコントロールし、協調性をもち生活していくことは容易いことではありません。遊びの場面も同様です。「自分だけのルールからみんなのルールへ」様々な場面を経て、子どもたちはみんなという存在に気づき、集団を意識した行動がとれるようになります。そして社会性を身に付けていきます。

7月21日(金)から夏休みがスタートします。それぞれの世界が広がり社会性が育っていく大切な時でもあります。保護者の皆様、地域の皆様、子どもたちが、安全に充実した夏休みを過ごすことができますよう見守りお願いいたします。8月28日(月)一回り成長した子どもたちに会えるのを楽しみにしています。